

[別紙]

## 平成 27 年度 同好会事業報告

文学

同好会

世話係名 西原 秀明

会長名 清水 幸子

| 月 日      | 実 施 し た 事 業 内 容                                                           | 参加人員 |
|----------|---------------------------------------------------------------------------|------|
| 5 月 1 日  | 同好会 役員決定・年間計画立案                                                           | 6 名  |
| 7 月 30 日 | 信州大学教育学部の教授である西 一夫先生による講演会「古典文学の窓－本当は面白く、楽しいんです－」「浦島太郎（御伽草子）伝説を読む－学びを広げる」 | 17 名 |
| 8 月～12 月 | 各自で本を購入し、読後の感想と合わせてその本の紹介文を書く。                                            | 8 名  |
| 1 月      | 紹介文を冊子にまとめ、配布                                                             |      |
|          |                                                                           |      |

今年度の文学同好会では、「講演会」と「お薦めの本の紹介」の二つを行いました。

一つ目の講演会は信大の西一夫先生による出前講座「古典文学の窓－本当は面白く、楽しいんです－」に申込み、七月三十日（木）に「浦島太郎」（『御伽草子』）伝説を読む－学びをひろげる」と題し、西先生にお話していただきました。

昔話としてよく知っているつもりの「浦島太郎」でしたが『御伽草子』の中の「浦島太郎」はどのようなお話か教えていただきました。例えば、「太郎は子どもたちがいじめている亀を助けたのではなく、釣り上げていました。その亀をなぜ海に帰したのかというと「鶴は千年亀は万年とていのち久しきものなり。」という理由から助けたのです。また、乙姫様ではなく、「うつくしき女房」を海上で見つけ、その故郷に連れて行ってあげたところそこが竜宮城で、四季を眺める部屋があり、面白くて三年も過ごしてしまったのです。」というように、昔話との違いを楽しく教えていただきました。さらに「太郎が竜宮城から帰ってきて玉手箱を開けたのは木曾川のそばで白髪の翁になってしまったとき今までの出来事から目が覚めたように思ったことからここを「寝覚の床」と呼ぶようになった。」と由来もわかりました。西先生にはそのほかの昔話についても機会があれば学びたいと思います。

二つ目は同好会員それぞれがお薦めの本の紹介文を書き冊子にまとめました。昨年度も同様のことを行い好評でしたが，今年も個性あふれる，紹介文が集まりました。そして，自分の興味関心とは違うのだけれども素敵な本があることを知り読んでみようという思いになりました。来年こそは実際に本を持ち寄ってブックトークができればさらに勉強になるかと思います。

（会長 清水幸子）